

## 【高等学校の部】優秀賞

### 家族

学校法人扇城学園 東九州龍谷高等学校 2年  
南 茉優



私の家は、まわりの人たちとは違います。祖母、姉、私で暮らしています。もともとは祖父、祖母、父、母、姉、私の6人で暮らしていました。でも私が3歳の時に母と父が離婚して、私は父方の祖父、祖母、父に引き取られました。当時の私は3歳だったのでほとんど覚えていません。そして、私が小学校4年生のときに父が心筋梗塞で亡くなりました。小学校4年生で父も母もいなくなった私は10歳で、その時はなんとも思っていなかったけど、それからの学校生活で、まわりの人たちがお父さんお母さんの話をしている時、私はお父さんもお母さんも両方いなかったからその話に入ることも嫌だったし、話を振られる事も嫌になりました。でも、父が亡くなり、私と姉は、祖父、祖母に引き取られて、祖父母は私と姉を本当の娘のようにかわいがってくれました。孫だけど、自分の息子よりかわいがってくれて、お父さん、お母さんがいない分、たくさんのおいしい食べ物を買ってきてくれたり、作ってくれたり、たくさん愛情をそそいでくれました。そんな暮らしが、お父さんがいなくなって心が暗くなっていた私を明るくしてくれました。

しかし私が中学1年生の時、祖父の肝臓にガンが見つかりました。私たちは、もし死んでしまったらどうしようとずっと考えてしまって泣いていました。手術をすることが決まり、手術も成功してほっとした安心感を今でも忘れません。それから、少ししてから祖父のガンが再発しました。リンパにも転移して、もう施しようがないくらいでした。幸せだった日々が一瞬でなくなりました。一月四日に入院して、私は毎日お見舞いに行きました。日に日に悪くなっていく祖父を見て、涙が出そうだったけど、私は絶対に祖父の前では涙を見せませんでした。祖父が亡くなる前日、私と姉でお見舞いに行った時、祖父が「ごめんな。おばあちゃんをよろしくな。強い言い方をせんで、優しくして仲良く過ごしてね。」と言われました。その時、私と姉は祖父の言ったことを絶対に守ろうと決めました。

それから祖父が亡くなり、私、祖母、姉の3人暮らしになりました。気付けば、父も祖父もいなくなり、ふとした時にすごく寂しくなります。祖母は一人で私と姉を育ててくれて、私立校にも入学させてくれました。祖母を少しでも支えられるように、私と姉は家の手伝いをしっかりしています。時々、祖母とけんかをして、ひどい事をたくさん言ってしまうたり、「こんな家に生まれてこんなかったら良かった。」とか、一生懸命育ててくれている祖母に向かって最低の言葉を言う時もありました。素直になれない私は「ごめんね。」の一言が言えなくて申し訳ないけど、本当は大好きです。誰よりも大好きです。この言葉を、いつか祖母に伝えられたらいいなと思います。

私は両親がいなくて、それを友達に知られて「かわいそう。」と言われるのがすごく嫌でした。できれば、友達には祖母、姉、私の3人暮らしという事も、できるだけ知られたくありませんでした。でも今は、両親がいなくてかわいそうと言われても「そんな事ないよ。」と自信を持って言えます。両親がいなくても、両親以上に優しく、時にはしっかり怒ってくれ、たくさん愛情をそそいでくれる祖母の家で暮らせて幸せです。そして、親戚の人やまわりの人、たくさんの人に支えられて生きている事が何よりの幸せだなと感じる事ができました。当たり前毎日が当たり前じゃなくなる日は一瞬で来ます。「今」を大切に感謝の気持ちを忘れずに、日々を過ごそうと思います。